

# 希望の種

ふくおか  
NPOファイル

16

小学生が5人一組でチームになり、暗闇の中、力を合わせて宝を探す。そんなイベントが3月5日、添田町で開催されました。主催は同町と同町教委、企画・制作・運営は「楽しいをカタチに」を理念として活動するNPO法人ハッピーライド（福岡市博多区）です。

英彦山（添田町）の天狗伝説にちなみ、子どもたちは暗闇の中でさまざまな困難に立ち向かう山伏として修行を行い、最後はハッピーライドのスタッフが扮する海賊団と宝探し対決するというストーリー。そこには多くの学びを得られる仕掛けが盛り込まれています。

車いすに乗ってコースを進

## ハッピーライド

事務所＝福岡市博多区▽電話番号＝092(201)8435  
メールアドレス＝happyride38@gmail.com

# 遊びの中で学ぶ工夫

安で泣いてしまう子もいますが、その時にもメンバー同士が励まし合う場面まで想定し、設計してあるそうです。

「遊びの中の学び」をテーマに、教えず、押し付けず、導かず。企画の設計を中心に考えているのは、ハッピーライド理事長の常田清貴さん（45）です。

2008年、イベント企画運営会社で働いていた常田さんは、視覚障害のある女性に出会います。サポートしよう

まなければクリアできないミッションがあったり、暗闇の迷路では足元に視覚障害者用の点字ブロックで道案内がしてあったり…。進む・止まる・階段ありなどの指示を、理屈ではなく体験から知ることができ、右と左のどちらの道を進むか、話し合いと選択の連続の中で自然とリーダーが生まれます。暗闇を歩き、不  
と声をかけタクシーに乗せる時、彼女はドアに頭をぶつけてしまいました。  
「そうか、目が見えないことは、こんなに不便なのか…」友人となった常田さんは、目が見えないにもかかわらず、ほとんど外にも出かけるし、料理もこなす彼女を見て、人生観が百八十度変わるほど驚かされます。09年、自分が支援を受けるだけでは  
年にイベント企画の個人事業主として独立すると同時に、ハッピーライドを設立。身体に障害のある人も報酬を受けられるスタッフとなり、5人で活動を始めました。  
障害がある人の不便さを、理屈ではなく、楽しみながら自分の体験として感じてほしい。それと同時に、障害がある人が支援を受けるだけでは  
なく、その個性や特技でヒーローになれる機会があれば、もっと自分のアイデアや意見を言葉で表現することができるようになるのではないかと、そんな思いで試行錯誤してきたイベントには、公民館や行政機関からの依頼が多く、3月17日現在で計65回開催、のべ約4500人の参加実績があります。



ハッピーライド「海賊団」のポスター

体験・参加型のイベントは「謎解きが苦手でも隠された宝物を探すのは得意」「みんなをまとめるリーダー役にはなれる」「計算は負けない」などと、それぞれの個性を組み合わせて、声を掛け合ってコミュニケーションを取らないと絶対にクリアできない仕掛けになっています。地域のつながりや活性化だけではなく、企業のチーム力向上研修などにも常田さんは考えています

（仮認定NPO法人「アカツキ」代表理事・永田賢介）

原則毎週月曜掲載